



年頭に あたり

- | | | | |
|--------------------|----|-------------------|-----|
| ● 理事長挨拶 | P2 | ● 検査室より | P7 |
| ● 病院長挨拶 | P3 | ● 看護部より | P8 |
| ● 地域医療連携室長挨拶 | P4 | ● 地域公開講座ご案内 | P9 |
| ● 事業本部長挨拶 | P5 | ● 節分料理 | P10 |
| ● 看護部長挨拶 | P6 | ● 理念/学会案内 | P11 |
| ● 事務局長挨拶 | P6 | ● 外来診療表 | P12 |

理事長挨拶

年頭のご挨拶



理事長 寺岡 暉

寺岡記念病院は、年間1,500～1,750件の救急車に対応しています。このため、厳しい人材難の中、2系列（内科系・外科系）の医師、複数看護師、レントゲン技師を当直体制に投入し、また検査技師・薬剤師にも応需体制として、24時間救急医療応需に努めております。病棟においては、急性期・亜急性期・回復期・維持期の医療が切れ目なく、また一体的に提供できるように努めています。この体制を急性期対応型医療と名付けています。

改めて思うのですが、少子高齢化・多死社会と呼ばれるこの時代に、この地域社会で医療・福祉に携わるものとして、われわれは時代と地域社会の変化を強く意識せざるを得ません。すなわち、昨年の2012年から、団塊の世代が高齢者の仲間入りを始めました。10年後には後期高齢者（75歳以上）になり始めます。地域的には、中山間地域と呼ばれるこの地域は、少子高齢化の先進地域（都会地域でもやがてこうなるという意味）です。

このような、時代と地域の背景のもとで、急性期対応型医療の対象者の年齢層が10歳から15歳、高齢化へシフトしました。その結果、回復が遅延し、再発率が高くなり、退院の条件が整い難い傾向にあります。また、退院後も、要医療と要介護が同居する人が増えることになります。もっと踏み込んでいえば、かつて「社会的入院」と

云って白眼視されていた状態が必然的に生まれる、という次第です。この状況を医療の外に排除することは、社会的虐待であるといっても過言ではありません。

以上のような段階的な思考と協議を経て、寺岡記念病院と社会医療法人社団陽正会は、他の医療施設、福祉施設、行政、地域住民のみなさまとの連携を一層緊密にして、今年度以降次の新事業に取り組みます。ご協力とご支援を宜しくお願い致します。

- 一、寺岡記念病院は急性期対応型医療を進めると同時に、それをフォローする在宅・施設療養のサポートを強化する（訪問看護、退院支援、通所リハビリテーションなど）。
- 二、社会医療法人社団陽正会の新事業として、要介護者・要支援者に対する医療監視・保護の行き届いた新型居住施設「ローカル・コモンズしんいち」を建設し、このエリアにおいて、新市福祉会の新施設「ジョイトピア3」と一体化した地域包括ケアの拠点づくりに取り組み、同時に地域交流をすすめる。
- 三、北川クリニック・介護療養型老人保健施設みのりとの連携を強化する。
- 四、神石高原町立病院において、高齢者医療を通じて「スローメディシン」を推進する。

院長挨拶

新政権への期待と、 地元に着した医療機関



病院長 武田 昌

2013年の年頭にあたり、院長よりご挨拶申し上げます。

さて、昨年末には衆議院議員選挙があり、政権与党である民主党が「記録的大敗」を喫し、自民党政権が誕生しました。民主党による政権は、過去のどの政権と比較しても最も信頼性に欠けるものであったといえるでしょう。新たに政権に返り咲いた自民党にしても「まだましかな・・・」という程度の国民の醒めた選択によるもので、これからどれだけ失われた信頼感を取り戻せるかが問われていると思います。私たちの立場からいえば、まずは医療・福祉の部門への強力なご入力を期待して待ちたいと思います。

私たちの地域の医療を見ても、さらに厳

しい現実が待ち受けており、ますます加速する高齢化に対応した、柔軟な医療・福祉が期待されています。幸い、再構築された府中市民病院との連携も昨年より徐々に進みつつあり、この地区の医療を牽引していく両輪として協力体制を築いていけたらと考えております。

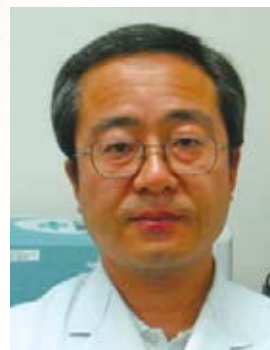
また、当院の基本である、地元に着した常に信頼される医療機関であるべく、今年も努力していく所存です。



地域医療連携室長挨拶

地域医療連携室より

副院長 腎センター長
地域医療連携室長 熊谷 功



当院はケアミックス型の病院であり、地域の救急医療、急性期専門病院から引き続いての亜急性期・回復期医療、在宅や施設に移行するまでの慢性期・療養医療と幅広く担っております。切れ目のない医療介護を実現するためには、地域連携室の働きが無くてはならないものであると自負するとともに責任を感じております。

昨年8月30日に第2回地域連携の会を開催いたしました。患者さん方の紹介を通して連携させていただいている急性期病院・診療所・介護施設にお声掛けをして、院長先生や地域連携室担当の先生方、スタッフの方々に多数ご出席いただきました。今回は、より身近で具体的なテーマと、交流でき

る時間を長く確保するということをコンセプトとしました。幸い、より親密な交流が得られ今後につながっていく実感をつかむことができました。

紹介受診予約、検査依頼予約、入院転院の予約・手続き、退院に向けての相談、退院後の介護施設利用・入所の手続き・予約など、今まで以上に、患者さんご本人とご家族のお役にたてるよう活動していきたいと考えております。益々のご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

事業本部長挨拶

2013年の年頭にあたり

常務理事
法人本部 事業本部長 寺岡 謙



昨年、師走に行われました衆議院総選挙で、自由民主党が政権に返り咲きました。安部新総理は金融緩和や公共事業推進について積極的に推進するという発言を繰り返しており、これらの発言に金融市場は極めてポジティブな反応を見せています。株高が企業の業績と給料の上昇に繋がるのは1年以上掛るようですが、おそらく安倍政権下でデフレ脱却やマクロの観点から見た景気回復は進むと私は考えています。

民主党が総選挙で惨敗した要因の一つは、まさに経済に関する無策です。円高で企業が軒並み大苦戦しているにも関わらず、何ら対策を打たなかった。デフレが進行しているにも関わらず、事業仕分けを含めデフレ対策といった点では本末転倒な事しかやって来なかった。逆に言えば、何も自民党や安部総理が特別凄いという訳ではなく、デフレ脱却に必要な「当たり前の事を当たり前にやろうとしている」だけなのかもしれません。

今、この「当たり前の事を当たり前にやっていく」という事が、地域医療や介護に求められているのではないのでしょうか。景気が回復しようが、外交・安保が安定しようが、日本全国の地域社会は多死の時代、すさまじい人口減少の時代を迎える事に変わりはありません。高齢者医療や終末期医療へのニーズが劇的に高まるそのような状況下では、各々の医療機関や介護保健施設が単独でそのニーズに対応するには無理があり

ます。医療と介護・福祉が制度の垣根を越え、現存する地域資源(ヒト・モノ・情報)を有効的かつ一体的に連携・活用するという、いわば地域が総力戦を展開する事が必要です。更に重要な事は、その総力戦において、現状の医療・介護両保険制度や関連制度では対応しきれない「隙間」の部分埋めていくという事です。医療なくして介護はない、介護なくして医療は語れないという、「極めて当たり前の事」を実践する時に来ています。

社会医療法人陽正会寺岡記念病院では、以上の事を念頭においた新規事業の立ち上げを計画中です。ただ、この事業は社会保障という基本的な枠組みを重要視しながらも、新市町の「地域づくり」という大きな視点も意識した中で進めようと考えています。何故なら、地域社会が直面している人口減少の時代は、社会保障に限らず経済や教育を含む地域社会の全体構造そのものの変革をもたらすからです。そのような時代にあっては、おそらく社会保障、経済、教育、更に場合によっては文化といった要素が、お互いに補完しあいながらトータルな形で町の「価値」というものを形成していくのではないかと想像しています。新しい時代の新しい地域社会とは、どのようなものなのか。新市町から全国に発信出来る様な取り組みを、この事業を通じて構築出来ればと考えています。

看護部長挨拶

「チーム医療」

看護部長

甲斐 みどり



寒波の到来で年末より寒い日が続いています。12月はノロウイルスが猛威をふるい、1月になるとインフルエンザが流行しています。皆様体調を崩されてはいないでしょうか。

効果的に患者中心の医療を提供するためには、「チーム医療」が不可欠と言われています。当院でも、リハビリスタッフや医療ソーシャルワーカー、栄養士など多職種が専門的意見を述べ話し合いをする機会が多くなり、退院後の生活の質を維持するためのカンファレンスも、患者様やご家族と共に院外のケアマネージャーや施設の職員、訪問看護師などが一堂に集まり、話し合うことも当たり前のようになってきました。

今後は、総合病院での臓器別の「治す医療」も必要ですが、障害や慢性疾患のコントロールや合併症の予防といった「生活を支えるための医療」がさらに重要となるようです。急性期医療から在宅医療までを担う地域に根差した当院だからこそ、患者様やご家族が必要とする細かな医療ができると自負しております。地域で医療を受けながら家族と身近に生活ができるようにするためには、患者様やご家族と共に訪問看護師や多職種の一層の意見交換が必要となります。安心して在宅療養ができるように、看護師は五感を働かせ患者様の病状を的確に把握し対処できる能力が重要となります。医師の指示だけで動く看護師ではなく、主体的に考えながら行動できる看護師を育成していきたいと考えます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

事務局長挨拶

地域支援の輪

事務局長
法人本部 事業本部次長

西嶋 朝枝



2011年3月11日は、日本の国民においては忘れ得ぬ日となりました。いや、決して忘れてはならない日だと痛感しています。人間の大切な生命を、わが愛する人たちの生命を、一瞬にして失われてしまい、つらい、悲しい、苦しい心の痛みをいまだに感じずにはおられません。

年頭にあたり、被災地の皆様が安心・安全に暮らせる日々が一日でも早く訪れますことを切々に願っております。

次にこれからの日本において、大きな課題の一つは総人口が減少するなかで、高齢化率の上昇とともに、認知症高齢者の数が現在の305万人から、さらに、2025年には470万人にまでに急増すると推計されています。

昨年、「認知症の早期発見・支援について」考える機会を頂き、グループ内で認知症の現状を調べていく過程において、いかに「早期に気づき」、治療の必要があれば、早期に治療を開始する事が重要であるということを改めて考えさせられました。認知症が進行すると物を盗られたなどの妄想や、様々な症状が出てくることがあります。専門医の治療を受けることで、本人の状態が和らぎ、ご本人やご家族が穏やかに過ごすことができると思われれます。特に最近、「もの忘れが気になる」、「日付や曜日がわからない」など気になる方は、早めにかかりつけ医療機関等へ相談される事が大切だと思います。

そうした日本社会の動向を踏まえ、現在の医療・介護を取り巻く環境を整えて、出来る限り住み慣れた地域で、安心して暮らし続けることが出来るよう、私たちは地域の皆様との連携を十分に図りながら、地域支援の輪へと繋げて行きたいと考えます。

末筆になりましたが、地域の皆様方そして、職員皆様のご健康を祈念いたしまして、ご挨拶にかえさせていただきます。本年も、よろしくお願いいたします。

検査室より

尿蛋白、尿潜血、尿糖について

みなさん健康診断などで尿検査をされたことがありますか？

尿検査では尿中の蛋白、血液、糖が出ているかを調べる検査を行っています。どのような場合に陽性になるのかお話しします。



尿蛋白が陽性になったときは？

この場合では腎臓に原因があり、腎炎など何らかの原因が考えられます。ただし、健康な方においても運動後や発熱をしている時などの生理的要因で一時的に陽性となることがあります。また子どもでは立っているときには蛋白が出るが、横になっている時には出ないという起立性尿蛋白も見られます。

しかし、持続的に尿蛋白が出ている場合は再検査を受けてみましょう。

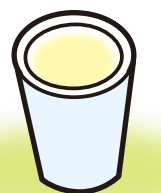
尿潜血が陽性になったときは？

これは尿中に血液が混じっているということを意味しています。腎臓で尿が生成され、排尿するまでのどこかに原因がある可能性があります。しかし、女性の場合は生理時にその血液が混入する事がありますし、一時的な潜血は誰にでも起こりやすいものです。一過性なら問題ありませんので、陽性となった場合まずは再検査を受けてみましょう。

尿糖が陽性になったときは？

血液中に含まれるブドウ糖は腎臓で尿を作る過程にて尿中にブドウ糖を出さないようにしていますが、糖尿病などで血糖が高くなると、尿中にブドウ糖が出てくるようになってしまいます。そのため尿糖が陽性の場合、まず糖尿病を考えることとなります。ただし、妊娠中の女性や中高年、若い人では疲れている時などに尿糖が出ることがあります。尿糖が陽性の場合、血糖、あるいは糖尿病の検査としてHbA1cの検査を受けてみましょう。

尿は日々の環境や生活によって変わってきますが、尿検査を行うことによって健康状態などを知ることができますので、定期的に検査を受けてみましょう。





1) POS医療認定士 (日本POS医療学会認定)より

POS記録は、主観的・客観的情報を根拠に患者さんの問題の経過を順序立てて記録していく方法です。看護記録は実践した看護を証明するものですが、ケアに迫られ記録がおろそかになることがあります。記録委員会では実践した看護が適切に記録されているか、正しい言葉を使用しているかなど監査し、各病棟にフィードバックしています。また、看護記録の正しい書き方について研修会を開催しています。

- S** 患者や家族の言葉
- O** 検査結果、測定結果、観察したこと
- A** 分析・評価
- P** 計画

「無駄な記録はなくて、必要な記録を書く」ことに取り組み、平成24年11月25日(日)に福山医学祭で「看護記録簡素化の効果と課題」というテーマでポスター発表をしました。



千葉主任

2) 平成24年11月25日(日)第1回寺岡記念ICLSコースを盛大に開催することができました。

受講者からの声

- インストラクターから励ましながら丁寧に教えていただきやる気が出ました。
- 小人数の班に分かれて繰り返し教えて頂き、指導が個別的であり勉強になりました。
- 苦手意識がなくなった。今後も研修会に参加し役立てていきたい。



毎年開催を計画しておりますので、皆様ぜひご参加ください。

趣旨

地域医療への貢献・地域健康づくり事業の一環として、新市・府中・駅家・芦田地区の住民の皆様を対象に、健康をテーマとした啓蒙活動を無料で実施致しております。

これは、地域住民の皆様が主体的に病気を予防し、楽しくいきいきと暮らす生活をサポートすることを目的に実施しています。

看護、介護、リハビリ、食事、介護保険等様々なテーマについて、当院職員がお出向きし、講演をさせていただきます。

少人数のサロン、大人数の講演会、地域の集会の中での一部で…と、可能な限り様々なご要望にお答えしていきます。

実施要項

- ・対象地区については、当面の間新市・府中・駅家・芦田地区とさせていただきます。その他の地区については、別途ご相談させていただきます。
 - ・開催時間は月曜日～金曜日(祝日を除く)のうち約1時間程度でお願い致します。時間については、ご希望により調整いたします。
 - ・会場は申込者において確保して下さい。
 - ・講師料は無料です。
 - ・その他の希望があれば、ご相談させていただきます。
- 業務の都合により、希望日時に添えない場合がありますので、ご了承下さい。

理学療法士による「転倒予防について」

管理栄養士による食べやすい食事メニューについての献立紹介



理学療法士による「腰痛体操」



看護師による「熱中症予防」講座



この他にも、社会福祉士の介護サービス講座や、薬剤師の薬の飲み方等、様々な講座を用意しておりますが、皆様のご要望に応じた講座を行いますので、お気軽にご相談下さい!

地域公開講座お申込みまでの流れ

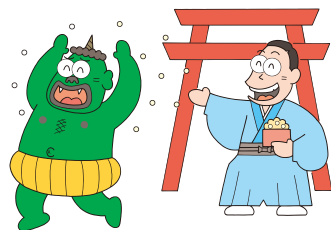
申込書に、「講座名」「参加予定人数」「希望日時」「場所」を記入して、当院地域医療連携室までご連絡下さい。(申込書は、当院ホームページからダウンロードできます。また院内にも準備しています)

お問い合わせ先は

社会医療法人社団陽正会 寺岡記念病院
地域医療連携室
TEL.0847-40-3656(直通)
FAX.0847-40-3657(直通) 担当/藤井
E-mail info@teraoka-hosp.jp

季節のはじまり節分

栄養管理室より



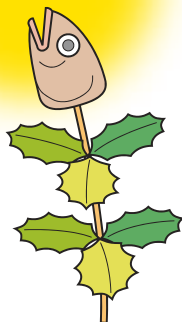
節分とは？



節分(せつぶん)は、各季節の始まりの日(立春・立夏・立秋・立冬)の前日のことを指しています。節分とは「季節を分ける」ことを意味しています。特に立春が一年の初めと考えられることから次第に、「節分」といえば春の節分を指すものとなりました。立春を新年と考えれば、節分は大晦日にあたり、前年の邪気を祓うという意味をこめて、追儺(ついな)の行事が行われていたわけで、その一つが「豆まき」です。

豆を撒き、撒かれた豆を自分の年齢(数え年)の数だけ食べる。また、自分の年の数の1つ多く食べると、体が丈夫になり、風邪をひかないというならわしがあるところもあります。豆は「魔滅」に通じ、鬼に豆をぶつけることにより、邪気を追い払い、一年の無病息災を願うという意味合いがあります。

節分といわし



節分には、豆まきをするほか、恵方を向いて長い太巻き「恵方巻」を食べたり、立春前日にあたる節分を年越しと考えて、前の年の邪気を払う「節分そば」を食べたりしますが、その他にも「節分イワシ」・「厄除け鰯」というものがあるそうですがご存知でしょうか?「節分イワシ」は、邪気を払うためにイワシの頭を門口にさした習慣に由来しており、主に西日本でイワシを食べる習慣があるそうです。「鰯」の頭を柵に刺して戸口などに下げて邪気を払い、塩いわしを焼くときのもうもうとした煙でいわし臭くなった家には鬼も寄りつかなくなり、また悪い霊が迷いこむのを防ぐといわれています。

いわしの栄養素



鰯(いわし)は、魚の中でもとくに栄養が豊富で、良質なタンパク質が含まれており、ビタミンD・カルシウム・EPA(エイコサペンタエン酸)・DHA(ドコサヘキサエン酸)が豊富に含まれています。良質なEPAやDHAは、悪玉コレステロールを下げて、動脈硬化・心筋梗塞・脳血栓・高血圧・アレルギー疾患などの予防によいとされています。たっぷり含まれているカルシウムを上手にとるには、いわしを骨ごと食べるのが一番です。梅干し煮は、梅干しの酸で骨まで柔らかくなり、丸ごと食べられます。しょうがと一緒に用いれば、いわし独特のにおいを消してくれます。刺し身、つまみ、煮つけ、干物、フライと、どんな食べ方をしてもおいしいだけでなく、良質のたんぱく質や、骨を丈夫にする栄養素がたっぷり含まれています。

寺岡記念病院 理念

トータル&シームレスケア
全人的で切れ目のない医療提供の推進

スローガン

保健・医療・福祉の統合とネットワーク形成による新地域医療を実践しよう

方針

- ① 地域住民の健康と安心を守る医療機関であり続け、健康地域づくりに貢献します
- ② 医療を受ける人の個々のニーズに応える医療を提供します
- ③ 安全で良質な医療提供のためスタッフの職務能力と人格能力を高めます
- ④ 社会の要請に対応した医療を提供します
- ⑤ 長期的に安定した医療を提供するため健全な経営を行い病院の総合力を高めます

第16回

日本脳神経外科学会 ご案内

<http://16jansc.jtbcom.co.jp/>

会 期

2013年7月20日(土)
21日(日)

会 場

福山ニューキャッスルホテル
広島県民文化センターふくやま

会 長

寺岡 暉
(社会医療法人 社団 陽正会
寺岡記念病院 理事長)

学会事務局

社会医療法人 社団 陽正会 寺岡記念病院
〒729-3103 広島県福山市新市町新市37番地
TEL:0847-52-3150(直通)
FAX:0847-52-3170(直通)



寺岡記念病院 外来診療表

2013.2.1現在

診察室		月	火	水	木	金	土
内科	1診	松本 寛	武田 昌	福田 真治	武田 昌	竹内 康人 (肝臓)	武田 昌
	2診	熊谷 功	熊谷 功	松本 寛	福田 真治	熊谷 功	松本 寛
	3診	水田 真琴	水田 真琴	竹原 幸人	藤原 英晃	藤原 英晃	福田 真治
	4診	河野 博行	西森久和(月2回) (血液内科)	武田 昌 (初診)	河野 博行	竹原 幸人	
	専門外来			上野 弘貴 (脳神経内科)		中村 重信(月2回) (パーキンソン)	榎野博史(月1回) (腎疾患)
	専門外来	前島 洋平 (糖尿病)		中川 晃志 (循環器)	武田 昌 (アスベスト)		岩崎良章(月2回) (肝臓)
脳神経外科	1診	寺岡 暉	寺岡 暉	寺岡 暉	寺岡 暉		寺岡 暉
	2診	竹信 敦充	竹信 敦充	井林 賢志	鳥取大	竹信 敦充	東京大
	3診	井林 賢志	北川 陽介	東京大	竹信 敦充	北川 陽介	竹信 敦充
	4診			竹信 敦充			
	専門外来		東京大	東京大		脳健診	竹信 敦充(月2回) (頭痛)
外科	1診	矢野 匡亮	浦久保 直澄	矢野 匡亮	浦久保 直澄	矢野 匡亮	浦久保/矢野
	2診	岡山大	矢野 匡亮	浦久保 直澄	大西 哲平	浦久保 直澄	
	専門外来		黒子 洋介 (心臓血管)				
整形外科	1診	小坂 義樹	小坂 義樹	小坂 義樹	岡山大	小坂 義樹	小坂/周 (第1・3・5週/第2・4週)
	2診	小坂 義樹	小坂 義樹	小坂 義樹	小坂 義樹	小坂 義樹	小坂 義樹 (第1・3・5週)
	専門外来			小坂 義樹 (小児整形)			
	専門外来			岡山大 (形成外科)			岡山大(第2・4週) (形成外科)
泌尿器科	1診	志田原 浩二	志田原 浩二	志田原 浩二	志田原 浩二	志田原 浩二	志田原 浩二

専門外来					
糖尿病	月	午後2:00～4:00(予約制)	脳健診	水・金	(予約制)
肝臓病	金	午前9:00～12:00(予約制)	パーキンソン病	金(月2回)	午後2:00～4:00(予約制)
	土(月2回)	午前9:00～12:00(予約制)	頭痛	土(月2回)	午前9:00～12:00(予約制)
脳血管障害	火・水	午後2:00～4:00(予約制)	腎臓病	土(月1回)	午前10:00～12:00(予約制)
小児整形外科	水	午後2:00～3:00	禁煙外来	火・木	午前9:00～11:30(予約不要)
形成外科	水・土	午前10:00～11:00(予約制)		土	午前9:00～11:00(予約不要)
心臓血管外科	火	午前9:00～12:00(予約制)	もの忘れ外来	月・火・水・木・土	午前9:00～11:00(予約不要)
循環器内科	水	午後2:00～4:00(予約制)	総合診療科	月・火・水・木・土	午前9:00～11:00(予約不要)

地域医療連携室

外来・入院紹介 TEL.0847-40-3656
FAX.0847-40-3657
CT・MRI検査予約 TEL.0847-51-8045

寺岡記念病院

TEL.0847-52-3140(代) FAX.0847-52-2705
通所リハビリテーション「フォース」
TEL. & FAX.0847-52-7655

本誌について、ご意見ご感想がございましたら、是非お聞かせください。

〒729-3103 広島県福山市新市町新市37 TEL0847-52-3140
E-mail:info@teraoka-hosp.jp http://www.teraoka-hosp.jp/

社会医療法人社団協正会
寺岡記念病院

発行

2013.2
vol.35

メデイカル・クォーターリー

てらおか